

アカデミック・ライティング入門

2016年6月24日(金) 担当・文責：濱口 喜広 (総合図書館 TA)

(1) レポートの形式

① レイアウト

表紙に、タイトル、所属、学籍番号、氏名、ページ番号
余白などを工夫し、見やすいレイアウトにする
余白や行間を広めにしておくと、添削や推こうがしやすい

② 参考文献

書籍) 文献番号、著者名、書名、出版社、出版年
論文) 文献番号、著者名、出版年、タイトル、出版社、ページ番号
HP) 文献番号、(著者名)、サイト名、サイトアドレス、アクセス日時

③ 適切な引用

引用であることを明記 (段落を分けても良い)

→ ○○によると、・・・・・・

→ 著者名・書名・ページ番号を明記

1) 通常の引用：引用した文献の文章を一字一句変えない引用

括弧引用/ 「・・・」で、引用部分を区切る

配置引用/ 本文と引用部分の行間を空けて、引用部分のインデントを狭める

2) 要約引用

引用文献を自分で要約した上で、引用する(3割ルール)

→ 文章表現を変えても良いが、文章の内容を変えてはならない

→ 著者の述べてない内容を書く危険性

☆レポートや論文の形式は、提出先によって、様々。提出前に、提出方法と提出形式をよく確認する事

(2) レポートの構成

・レポートの構成 = 序論－本論－結論

① 序論

・ 問題意識

その内容を書く動機を素直に書けばよい

調べたい内容＝説明したい内容を書く

← レポートの内容が社会に役立つ、社会問題の解決策になる等が簡単

・序論構成

社会状況 → 問題意識(動機・命題・貢献) → 結論の要約 → レポートの構成

②本論

- 1) 調べた内容を書く → 証明すべき命題を書く → ○○ならば、○○である
- 2) 証明方法を考える → 文献調査 → 内容を箇条書きにまとめる
- 3) 調査内容を考察 → 自分の考えをまとめる → 結論

・文献調査

*タイトルと目次の斜め読み

*巻末の参考文献欄をチェック

帰納的：調べたいことを先に明らかにしておく調べ易い

演工キ的：興味のある文献を読んでから、調べたいことを探す

→ 先行研究の概要・最近の研究動向・今後の展望をまとめたサーベイ論文を探す

→ 文献の「はじめに・序章」をよく読む。関連研究をまとめている段落あり

*邦語文献・論文の調査は、CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/ja>)が、とっても便利

*図書館の参考調査や司書に相談

・本論構成

文献紹介(先行研究の批判) → 研究方法の説明 → 論証 → 結論

③結論

説明した内容を簡潔にまとめる。無駄に多く書かないこと

- 1) 説明した内容(命題)・証明方法・結論
- 2) 内容の未熟な点と改善策を今後の課題として書く

(3)帰納法による構成の作り方

①序論

・社会状況

近年、日本社会では・・・・・・が大きな社会問題になっている。○○によると、○○年には・・・・だった○○が、・・・・となっている。この問題に対する議論は平行線をたどり、有効な解決策を見出せないでいる。

*統計情報を引用すると、説得力が増す

*探した統計情報で、グラフや図表を作成し引用すると、独創性あり(出典の明記!)

*答えが出せていない状況を書く → レポートを書く意義が生まれる

・問題意識

こうした中で、○○が有効な解決策と指摘されている。○○によると、・・・と主張している。これは、・・・である。しかし、□□は、○○の主張には限界があると述べている。なぜなら、・・・だからである。両者の意見は・・・を明らかにしているが、・・・に関する視点が欠けている。この視点を踏まえた研究により、この問題に対する有効な解決策を出せる。そのため、今回、この・・・を研究する。

*既存の文献(先行研究)の**不備を指摘**する(批判) → 研究の意義が生まれる

○批判：論理的根拠を元に、内容を評価(+・-)する → 理性的判断

×批難：感情的判断を元に、内容を否定(-)する → 好き嫌い

*レポートの内容が先行研究の不備を解決できることを書く → レポートに価値あり

・結果の要約

本研究では、・・・(研究方法)により、・・・(命題)を明らかにする。分析の結果、・・・が明らかになった。その理由は、・・・である。

*可能な限り簡潔かつ論理的に書く

・構成

レポートは、以下の通り、構成されている。序論では、・・・について述べる。本論では、・・・について考察する。結論では、今後の課題を述べる。

*序論は、全体の大まかな要約になっている ← ここで興味を持たれると、読まれる

*序論を書く前に、段落の内容と構成を先に決めておくと、論理が明瞭

*段落と段落の論理関係をきちんと整える事

②本論

1)調べる内容を決める

- ・証明すべき命題は暫定版でよい ← 考察を踏まえて、適時、修正可能
- ・研究は、フィード・バックの繰り返し (①、②、③を行ったり来たり)
 - ① 命題を考えて、調べて、レポートを書く
 - ② 執筆中に、新しい文献や新しい考えを見つけ、内容を修正
 - ③ 誰かと議論し、自分の盲点に気づき、内容を修正

2)証明方法を考える ← それぞれ、選択した理由を書くこと

i)事例の収集

各国・各地域の事例を3~5個ほど集める

二項対立を利用して、特色が出やすい組み合わせを選ぶ

例) アメリカ・イギリス・ドイツ・日本・フランス・ロシア・中国

- ・日本は、比較対象の基準
- ・日本より左側は、資本主義・分権主義 / 右側は、社会主義・集権主義

*日本より優れている事例なら、日本に導入すべきと提言できる

日本より劣っている事例なら、日本の先進事例を伝えるべきと提言できる

← 優劣の判断を下すために、論理的根拠が必要

ii)事例の整理

比較の基準を決める

*二項対立の中心を基準にする (今回は、日本)

*右寄りと左寄りで、相違点を区別しやすい

比較内容を3つくらい選ぶ

・各事例から、3~5個くらい、比較内容を箇条書きにまとめる

*比較の基準(日本)と類似している点と相違している点を区別する

3) 調査内容を考察 ← ここの内容が、あなたの独創的作業(=自分で調べ考え書く)

・類似・相違している理由を考えてみる

→ 論理的にまとめること (○○なので、○○である)

* 自分で考えた理由と調べた文献に書いている理由を比べて、理由を考える

→ 先行研究を真似する(何を根拠にして、どのように説明しているか)

→ 先行研究と結果が異なる部分が、新しく生まれた学術的知見

③結論

本レポートでは、・・・について研究した。(研究方法)により、(命題)を得た。これは、・・・だからである。この研究により、・・・により有効な解決策を提示できた。しかしながら、この問題を議論する際には、○○や○○についても考察する必要があるが、時間の制約でできなかった。この点に関しては、今後の研究課題である。

・ 次回の研究課題を書くことで、この研究が今後も続いていく・・・

(4)演義法による構成の作り方

・ テーマを決める

1)土台とする文献・論文を決定

・ 文献から、興味ある論点を3~5つ程を決めて、文献の内容を箇条書き

2)自分が調べたい内容・事例を決める

①文献・統計の収集

・ 必要な文献を集めて読み、比較表を埋めていく

→ 引用した文献名をメモしておく、本文を書くときに便利

→ 自分の言葉でまとめておくと、そのまま使える

②相違点の考察

選択した文献と自分が選んだ事例を比較し、類似点と相違点をまとめる

③原因の考察

相違点の原因を考える

- ・②・③に独創性があるので、ここを頑張る
- ・あるテーマ(命題)の論証方法を真似した上で、研究事例を変える方法
 - * 確立した論証方法で事例を増やすと、一般化につながるという考え
 - * レポートを書き易い反面、帰納法よりも独創性が失われやすい

(比較表の例)

	大阪太郎(2000)「インドの児童労働」	私「ブータン」	インドとブータンの違い	相違点の原因
児童労働の数・時間	800万人・一人当たり1日6時間	50万人・一人当たり1日4時間		
		豊中次郎(2001)「ブータンの子供たち」		
児童労働が起きる原因	賃金が安く、雇用調整に便利			
↓	↓	↓	↓	↓
政府による対策・問題点	児童労働対策法は、罰則規定なし			

(5) 参考文献の記載例

・参考文献

- [1] 堀 一成、坂尻 彰宏、「阪大生のためのアカデミック・ライティング入門」、大阪大学全学教育推進センター、2015年
- [2] 初めてレポートを書く大学生のための大学レポートの書き方、
<http://www.report.gusoku.net/>、2015年5月18日 15:21 アクセス

- ← 記載内容が削除・変更される可能性があるため
- ← 引用したサイトページを印刷しておくべき

(6) 推敲の目的

- ・ 初稿は下書き段階
- ・ 間を置き、他者のコメントを聞きながら、改訂を重ねることで、内容や文体が洗練

(7) 文体の推敲

- ・ レポートの基本作法に準ず
- ・ である調に統一/誤字脱字の修正/正しい引用/適切な図表の配置/ .etc
- ・ 誤解を生まない読み易い文章を目指す

(8)内容の推コウ

- ・論理的に意味・内容が明瞭かが、推コウの目安

接続語や句読点の適切な使用

→ 文章間の論理関係を踏まえているか

強調語や修飾語をむやみに使わない(主観的)

適切な段落分け

→ 一つの内容につき、一つの段落

- ・同じ単語や表現、内容の重複を避ける

Ex) 経済を専門にする経済学者が、・・・

子供が減り、老人が増え続ける少子高齢化社会において、・・・

→ 指示語を適切に使用

- ・論理的順序を守る

抽象的内容 → 具体的内容 → 抽象的内容

第一に → 第二に → 第三に → まとめると・・・

- ・主張と根拠の対応関係

(9)最後に

- ・斜線下線部文字が、独創的部分

- ・様々な文献を調べることで、内容や調査方法を知り、模倣する

*常識に囚われなくて、自由で柔軟な発想を

*間違いは当たり前。間違いの発見と修正は、大きな前進

- ・時間には制約あり。突き詰める内容とそうでない内容にメリハリを

- ・他者に読んでもらい、理解しづらい箇所を見つけてもらう(客観的になる!)

- ・いい文章ほど、他者を交えた推コウを幾度となく繰り返している

- ・いい表現、いい文章は、模倣する